

F P まつもと通信

ちょっと得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

ご挨拶

今年は5年に1度の年金財政検証の年です。

年金財政検証とはいわば年金の健康診断、今後の経済成長率や人口の増加（減少）率などの違いによる将来の年金の給付水準の見通しを示すものです。

結果は夏ごろに公表予定です。私たちの年金が将来どのように変わっていくのか注目したいですね。

誕生月に送られてくる年金定期便に記載のQRコードから自身の年金のイメージがつかめるようになっていますので上手に活用しましょう。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

小学生が賠償額1億円の加害者に！！
そんなことが起こり得るのが自転車事故です。
信号のない交差点は特に注意が必要です。

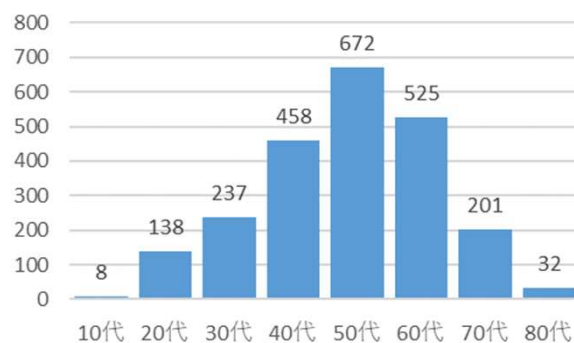
SNS投資詐欺 被害額277億円

著名人を語ったSNS型投資詐欺の被害が後を絶ちません。警察庁が発表した令和5年のSNS型投資詐欺は認知件数2271件、認知金額277.9億円でした。被害金額は500万円以下が多いですが5000万円以上の高額被害者が91人もいました。

ネット広告とSNSのやり取りだけでこれだけの金額を送金するのはちょっと信じられませんが有名人の声をAIで再生するなど手口も非常に巧妙になっているようです。

下図は被害者の年齢分布です。40代から60代の社会経験が十分にある世代でこれだけの被害がでているのは少し驚きですね。年金や老後資金の不安がある中、所得が伸び悩んでいることや最近の株高などの影響も大きいと言われています。

今後も新しいタイプの投資詐欺が出てくることも予想されます。被害にあわないために若いうちからしっかりとマネープランを立てておくことが大切なのではないでしょうか？



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの「悲惨な老後の実態」を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勧める、「確定拠出年金」や「つみたてNISA」を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

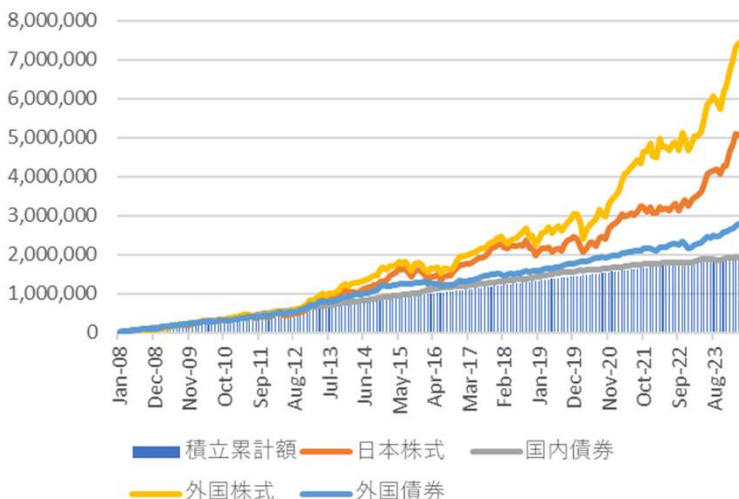
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Feb-24	Mar-24	Apr-24
積立累計額	1,940,000	1,950,000	1,960,000
日本株式	4,871,209	5,095,373	5,058,317
国内債券	1,923,622	1,930,859	1,918,116
外国株式	7,029,107	7,328,642	7,432,864
外国債券	2,683,562	2,725,824	2,785,996

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できません。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた外国株式への積立投資の合計額①196万円（青棒）は2024年3月に②743万円（オレンジ線）、約3.79倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになりました。

最大	2,783,552	2014年4月	～	2024年3月
最小	1,747,373	2010年4月	～	2020年3月
平均	2,317,688	データ数：77		

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

4月の株式市場は一転下落

	日経平均		NYダウ		ドル円
Feb-24	39,166.19	7.94%	38,996.39	2.22%	150.00
Mar-24	40,369.44	3.07%	39,807.37	2.08%	151.31
Apr-24	38,405.66	-4.86%	37,815.92	-5.00%	157.81

4月の株式市場は一転大幅に下落しました。米国の利下げ期待の後退、緊迫する中東情勢、が影響しています。

インフレ率の下げ渋り、それによる利下げの先送りはあるものの企業業績は全体として堅調なことから景気後退は避けられるとの見通しが一般的なようです。

ただし予想を超えるインフレ、見込んでいる金利低下と反対に利上げ議論などがでてくると大幅な調整もあり得ますが、長期の積立投資では短期的な値動きに惑わされずに継続することが大切だと考えています。

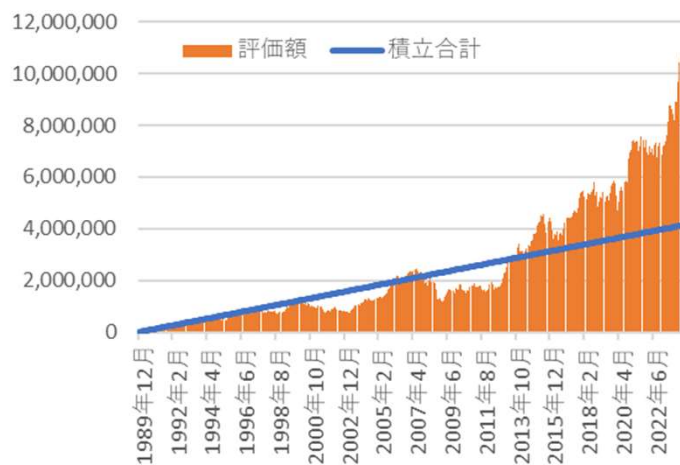
株式市場はバブルでは、と言われていますが積立投資を始めて（続けて）大丈夫ですか？

現在がバブルかどうかは別にして過去のバブル期、大暴落時に積立投資をしていた場合どうなっていたかを振り返ってみましょう。下図は1980年1月から2024年4月までの日経平均株価の推移です。1980年1月に6,768円だった日経平均株価は1989年12月に38,915円と10年間で約5.7倍になりました。



80年代後半の急上昇は、金利低下、不動産価格の上昇、不動産担保融資の拡大、などだぶついた資金が株式市場に向かい企業業績を伴わずに株価が急上昇したことからバブルだったと言ってよいと思います。

下図は日経平均株価に1989年12月のバブル期最高値から2024年4月まで毎月1万円積立投資をした場合の推移です。



積立開始からマイナスが継続、2000年には米国ITバブル崩壊から日経平均株価も大幅に下落、積立投資も大きく元本割れになりました。2007年には一時元本を回復しましたが直後のリーマンショック（2008年）で再度大幅なマイナスに。その後2013年に元本を回復し以後堅調に推移し2024年4月現在、積立額413万円に対し評価額は1078万円になりました。

元本を回復した2013年の日経平均株価は14,000円程度と積立開始時の半値以下でした（半値以下で元本回復がドルコスト平均法の効果です）。

90年代の日本のバブル崩壊、2000年の米国のITバブル崩壊、2008年のリーマンショックと3つの大きなバブル崩壊の影響を受けましたが、「ドルコスト平均法」と企業が利益を積み重ねてきた結果としての株価回復により積立投資で成果を得ることができました。

このような結果をみると長期の積立投資であれば開始時期にあまり神経質にならなくてもよいと考えてよいのではないのでしょうか？

ちょっと気になるお金のコラム

自転車事故で加害者になってしまったら

5月は自転車月間と定められているのですがご存じですか？（2017年5月施行の自転車活用推進法により）

活用推進法には、「自転車は、二酸化炭素等を発生せず、災害時において機動的、自動車依存の低減により、健康増進・交通混雑の緩和等に資するため計画的に推進していく」と記されています。

特にこの時期、自転車で風を切って走るのは気持ちが良いですね。環境にも健康にもやさしい自転車ですが、やはり気になるのは事故ではないでしょうか？

被害者にならないことはもちろんですが、加害者にならないように注意が必要です。

こちらは自転車事故による高額賠償の事例です。
(<https://www.sonpo.or.jp/about/useful/jitensya/index.html> 損害保険協会HPから引用)

賠償額 9521万円

男子小学生（11歳）が夜間、歩行中の女性（62歳）と正面衝突。女性は頭蓋骨骨折等の傷害を負い、意識が戻らない状態となった。

賠償額 9,330万円

男子高校生が夜間、イヤホンで音楽を聞きながら無灯火で自転車を運転中に、パトカーの追跡を受けて逃走。警察官と衝突し警察官は、頭蓋骨骨折等で約2か月後に死亡した。

賠償額 9,266万円

男子高校生が昼間、車道を斜めに横断し、対向車線を自転車で直進してきた男性会社員と衝突。男性会社員に重大な障害（言語機能の喪失等）が残った。

賠償額 6,779万円

男性が夕方、ペットボトルを片手に下り坂をスピードを落とさず走行。横断歩道を横断中の女性（38歳）と衝突。女性は脳挫傷等で3日後に死亡した。

賠償額 5,438万円

男性が昼間、信号表示を無視して高速度で交差点に進入、青信号で横断歩道を横断中の女性（55歳）と衝突。女性は頭蓋内損傷等で11日後に死亡した。

小学生などの未成年が1億円近い高額賠償の加害者になり得るのが自転車事故の怖いところです。対自動車を含めた事故原因で最も多いのは、出会い頭での衝突です。信号がない交差点は特に注意が必要です。

このようなことを背景に2015年に兵庫県で自転車保険の加入が義務化され、現在では32の都府県で義務化、加入義務がない都道府県でも努力義務となっています。

また2026年を目途に自転車でもいわゆる「青切符」による取り締まりが予定されています。16歳以上、信号無視や一時不停止、携帯電話を使いながら運転すること、など100余りの違反が対象です。反則金は5,000円～12,000円程度が検討されているようです。

環境や健康のために良い自転車が事故につながらないようにしっかりと注意して上手に利用したいですね。また自転車保険の加入状況も忘れずに確認しておきましょう。

